

調査研究「来たれにし阿波！移住！交流！」 報告書

1 はじめに

徳島県西部総合県民局に設置する「にし阿波協働センター」が、過疎・高齢化、人口減少が進行する「にし阿波（徳島県西部圏域：美馬市、三好市、つるぎ町、東みよし町）」の集落再生・活性化に向けてモデル的に研究検討に取り組んだ。

2 研究の背景及び目的

【背景】

にし阿波では、人口の減少・少子高齢化が進行しており、5年ごとに実施している国勢調査では、昭和35年から平成27年までの55年間で、徳島県全体では昭和35年の89.2%（847,274人→755,733人）の人口に対し、にし阿波では、45.7%（176,975人→80,902人）と半減しており、人口減少が著しい状況となっている。（図1）

また、国立社会保障・人口問題研究所がまとめた将来人口の推計によると、にし阿波の2040年の人口は、2015年の60.8%、2060年の人口は、2015年の37.7%になると予想されており、今後も人口減少が進むとされている。（図2）

【目的】

人口減少等による地域社会の持続が危ぶまれている状況の中、地域住民の目線に立った地域振興を目指すため、地域住民、関係団体、行政等が連携し、移住交流の促進や定住環境の確保等に繋げることを目的に、調査研究を行うこととした。

図1

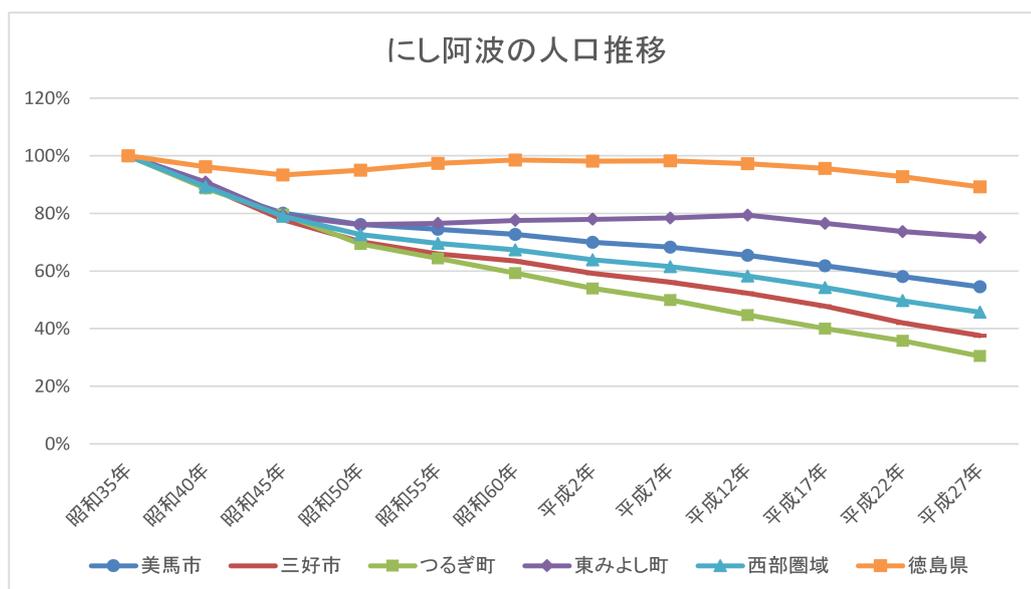


図 2

単位：(人)	国勢調査▼ (2015年)	推計人口 社人研		人口ビジョン ※	
		2040年	2060年	2040年	2060年
美馬市	30,501	20,058	13,174		20,000
三好市	26,836	13,745	7,235	14,000	
つるぎ町	8,927	4,942	2,817		3,500~4,000
東みよし町	14,638	10,424	7,244		10,000
西部	80,902	49,169	30,470		53,000~60,000
徳島県	755,733	570,991	419,281		600,000~650,000

※人口ビジョンは、国の期間(2060年)を基本とし、地域の実情に応じて期間を設定する。

3 研究方法

次の2つの研究を実施した。

(1) 地域住民、市町、関係団体、県等から構成される連絡会の実施

地域活性化活動を行う地域住民、市町、関係団体、県等から構成される連絡会を立ち上げ、課題解決について広域的に意見交換等ができる場を設けるとともに、にし阿波へ実際に移住した方々の意見や地域活性化の活動を行っている住民や団体のノウハウ等を吸い上げ、施策の参考とする。

(2) 仕事づくりに関する調査

移住や定住の際に重要な要素である仕事について、今の地域における仕事の現状を把握するため、商工団体の事業に対する考え方や地域内の子育て世代の女性に焦点を当てて仕事に対する意向を調査する。

4 研究内容

(1) 地域住民、市町、関係団体、県等から構成される連絡会の実施
全5回実施。概要については、次のとおり。

【第1回】

日時：平成28年8月31日(水) 午後3時から午後5時まで

場所：西部総合県民局<美馬>2階 中会議室

参加者：地域住民及び関係団体等 8名、行政関係者 9名

概要：

1 開会

2 趣旨等説明

会の目的、概要等について事務局から説明。

<会の目的>

圏域では、過疎化が顕著であり、地域社会の持続が危ぶまれている状況の中、地域住民、関係団体、行政等が連携し、地域住民の目線に立った地域振興を目指すため、圏域の課題解決等について意見交換し、地域活性化に向けた活動や定住環境の確保等に繋げる。

→地域住民、関係団体、行政等が、広域的に情報交換等ができる場を設ける。

→様々な視点からの意見やノウハウ等を基に、地域振興行政等に活かす。

<会の概要>

- ・年度内に5回程度開催し、開催場所は、その都度変更する。
- ・特定のテーマについて意見交換等を行い、課題や解決策を考える。
- ・テーマは、前回の会の中などからその都度決め、内容に応じて出席者を加える。
- ・解決策を考える中で、実施可能なものについては、実現を目指す。
- ・会に対する要望や意見は、積極的に取り入れる。

3 自己紹介

<実施方法>

- (1) グループ内で自己紹介を行う。
- (2) 10分経過したら行政関係者のみグループを移動する。
- (3) これを4回行う。

<内容>

出席者の名前、職業、趣味、今行っていること、今後行おうとしていること、困っていること、気になっていること等について、綿密な情報共有を行った。

4 意見交換「にし阿波の現状について」

にし阿波の現状について整理し、今後意見交換すべき事項について検討を行った。

<実施方法>

- (1) グループ内で、次の①～③のテーマについて、それぞれ意見交換を行う。
- (2) 出た意見は、付箋にマジックで書き、模造紙に貼り付けていく。
- (3) 意見の整理後、グループ毎に、出た意見等について発表する。

<テーマ>

にし阿波の現状について

- ①にし阿波のよいところ（長所等）
- ②にし阿波のよくないところ（短所、課題等）
- ③②について、それを解決するための方法

5 発表及びまとめ

各グループの意見のまとめについては、別紙1参照。

各グループの意見を見ると、次のような傾向が見られた。

- ・①としては、主に、住民の人の良さ、自然の多さ・綺麗さ、それを活かしたアクティビティ、歴史・文化の深さ、仕事のしやすさ等があげられた。
- ・②としては、主に、閉鎖的な考えが多い、運転マナーが悪い、仕事がない、次世代の担い手がない、耕作放棄地が多い、空き家が多い、公共交通が発達していない、人

口が少ない、娯楽が少ない等があげられた。

- ・③としては、色んな価値観があることを知って貰う、移住者を増やす、交流の場を作る・増やす、国際化する等があげられた。
- ・全体的に見ると、①に比べて②の意見数が若干多かった。
- ・①、②ともに、どのグループでも似たような意見が多く見受けられた。

<発表に対する意見まとめ>

- ・にし阿波のよいところとして意見を出したものは、どこにでもあるものばかり。
- ・にし阿波=何かというコンセプトが必要ではないか。
- ・にし阿波独自のブランドが必要ではないか。
- ・ブランド化することで、移住や観光、人の流れもろもろに繋がるのではないか。

上記の意見により、次回は、にし阿波のブランド化について意見交換を行うこととした。

6 閉会



【第2回】

日時：平成28年10月3日（月） 午後4時から午後6時まで

場所：やぎう坐（三好市）

参加者：地域住民及び関係団体等 6名、行政関係者 9名

概要：

1 開会

2 前回の振り返り

前回の実施内容について事務局から説明。

3 にし阿波～剣山・吉野川観光圏について

にし阿波のブランド化を考えるにあたって、にし阿波で既に進められている観光圏事業の概要について説明。

<西部総合県民局企画振興部（三好）にし阿波振興担当 山田課長補佐>

- ・にし阿波～剣山・吉野川観光圏の概要について説明。

基本コンセプト：「剣山に代表される山の資源」と「四国三郎・吉野川に代表される川の資源」の恵みが育んだ、独特の歴史文化、伝説伝承、暮らしをもとに、他地

域との差別化を図り、独自ブランドの確立を目指す。

キャッチコピー：「天涯のしずく 久遠の大河へ」～四国 剣山・吉野川紀行～

ブランド・コンセプト：千年のかくれんぼ～分け入るごとに、時は遡り～

→長い歴史の中で隠れた山里の密やかで豊かな暮らしの魅力を発信。

- ・大きな変化を踏まえ、交流人口の拡大による経済活性化、地域コミュニティの活性化を進め、「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくりのサイクルを行うことが重要。

<観光地域づくりマネージャー 牛尾 健氏>

- ・杜の都仙台や湯布院は、古くからブランドイメージを大切にしており、名前を聞くだけでイメージができる。
- ・観光政策を考える上で、ブランドコンセプトは重要だが、同じ地域でも各組織等がそれぞれのブランドコンセプトをバラバラに出している地域と、1つのブランドコンセプトに一貫している地域がある。
- ・ブランドコンセプトは、多ければ多いほどぶれるので、1つを崩さないのが大事。
- ・にし阿波には、「千年のかくれんぼ」というブランドコンセプトが既にあり、これをベースにして方向性を考えていってはいかがかと思う。

4 意見交換「にし阿波のブランド化について」

<テーマ・実施方法>

- (1) にし阿波をブランド化するための案を考える。
- (2) ブランド化の目的、何をブランド化するか、どのようにブランド化するか等をグループ毎に意見交換し、模造紙にとりまとめ、発表する。
- (3) 時間が足りない場合は、次回に持ち越す。

<内容>

全てのグループにおいて、取りまとめまでに時間を要することから、次回に持ち越すこととした。

5 閉会



【第3回】

日時：平成28年11月1日（火） 午後2時から午後4時まで

場所：カフェ パパラギ（東みよし町）

参加者：地域住民及び関係団体等 6名、行政関係者 7名

概要：

1 開会

2 前回の振り返り

前回に引き続き、以下のテーマについて意見交換を行うが、その前に、そのテーマになった経緯等の振り返りを行った。

3 意見交換「にし阿波のブランド化について」

<テーマ・実施方法>

前回と同様

4 発表及びまとめ

各グループの発表内容については、別紙2のとおり。

最後に、発表された案の中で、最良だと思われるものについて多数決を取ったところ、Aグループの「にし阿波国の建国」が最多票となった。ただし、課題が多く見受けられるため、次回もその内容について検討することとした。

5 閉会



【第4回】

日時：平成28年11月22日（火）午後2時から午後5時まで

場所：Trip 四国の川の案内人（つるぎ町）

参加者：地域住民及び関係団体等 5名、行政関係者 6名

概要：

1 開会

2 前回の振り返り

前回行った意見交換の内容について振り返りを行った。

3 意見交換「にし阿波のブランド化案について」

<実施手順>

- (1)にし阿波国案の再確認（前回の説明資料を用いて再度説明）
- (2)現時点の案の問題点や課題、検討すべき事項等についてグループ毎に洗い出す。
- (3)上記の内容について、発表し、全体で情報共有
- (4)情報共有したものからピックアップし、グループ毎に解決策、改善策を考える。
- (5)上記の内容について、発表し、全体で情報共有及びとりまとめる。

4 発表及びまとめ

各グループの発表内容については、別紙3のとおり。

5 意見交換「移住交流施策の現状等について」

移住交流施策の目的、県・市町の移住交流に関する目標、移住者数の状況、移住交流施策の状況等について説明。

- ・一段と加速する「東京一極集中」に歯止めをかけるためには、「新しい人の流れ」を生み出す「移住交流」を推進することが不可欠。
- ・県及び各市町の総合戦略において、移住者数又は移住世帯数等について、それぞれ重要業績評価指標（KPI）を設定している。
- ・各市町村の住民票交付窓口において「転入状況アンケート」を実施し、移住者の実態及び人数の把握を行っている。
- ・県の施策としては、ワンストップ移住相談窓口の設置、移住フェアへの参加、移住セミナーの開催、移住者交流会の開催、移住体験ツアーの開催、ホームページの開設、移住コーディネーター育成研究会の開催等を行っている。
- ・各市町の施策としては、空き家バンクの設置、お試し移住施設の開設、パンフレット作成、移住フェアへの参加、住宅リフォーム補助、移住者支援関係補助金等が行われている。
- ・平成27年度におけるにし阿波の移住者数は、計145名。平成28年度上半期では、86名ということで、前年度を上回るペース。

意見交換については、時間の関係で、次回に持ち越しすることとした。

6 閉会



【第5回】

日時：平成28年12月26日（月）午後4時から午後6時まで

場所：のどけや別館（美馬市）

参加者：地域住民及び関係団体等 5名、行政関係者 10名

概要：

1 開会

2 これまでの振り返り

第1回から第4回までの実施内容について詳細に説明。

3 意見交換「にし阿波の移住交流・定住の促進について」

前回、同様のテーマを取り扱ったが、時間の都合で意見交換を見送ったため、再度行うこととした。

改めて移住交流施策の目的、県・市町の移住交流に関する目標、移住者数の状況、移住交流施策の状況等について説明した後、3つのグループに分かれ、「新たな移住促進施策案」について、意見交換を行った。

4 発表及びまとめ

各グループの発表内容については、別紙4のとおり。

5 今後の方向性について

- ・来年度の実施については、未定。ただし、何らかの形で同様の会を設けたい。
- ・本会で集まった意見や案については、今後施策を考え、実施していく上での参考とさせていただきます。
- ・本会で取り扱った内容を反映させていただく際には、よっては御協力賜りたい。
- ・本会で出た案等を各自で実践する場合は、重複を避けるため、メンバーに一報入れること。
- ・本会でできた繋がりを今後の移住関係行政等に生かしていくこと。

5 閉会



(2) 仕事づくりに関する調査

にし阿波地域内の商工団体会員に向けた事業の今後に関する意向と、地域内の女性を中心とした子育て世代の仕事に関する意向を、アンケートなどを通じて調査を行うこととした。

調査方法の詳細や結果については、別紙5のとおり。

5 研究成果

(1) 地域住民、市町、関係団体、県等から構成される連絡会の実施

①官民連携の促進

様々な立場の人々が、気軽に情報交換等ができる場を設けることにより、官民相互の距離が縮まり、情報共有及び協力しあえる関係ができた。

今年度から来年度にかけて実施する「にし阿波・サテライトオフィス誘致促進事業」においては、本会の参加者と共に、お試し勤務施設の調査やその他コンシェルジュ業務を連携しながら行うことに繋がった。

②人材育成

地域活性化に繋がる活動を行う地域住民や移住者、関係団体、行政がそれぞれの目線で意見交換を行うことにより、これまでと異なる視点から問題点を解決するための考え方や視点を学ぶことができた。

また、県・市町村職員を対象とした「新未来創造オフィスフィールドワーク研修<西部>」において、本会の参加者を講師等に依頼し、地域の課題解決に際し、民間の手法を学ぶことに繋がった。

③意見や施策案の活用

今後の施策に活かすことのできる、様々な意見や施策案が多数まとまった。有用な意見で、日常業務で実践できるものはもちろん、ある民間の参加者は、会の中で出た「にし阿波国案」を基に、地域活動を促進するためのホームページを立ち上げているところである。

(2) 仕事づくりに関する調査

地域内の商工団体会員の今後の事業に対する意向は、人口減少による売上げの縮小、後継者の不足などから漠然とした不安を抱えており、事業の継承などに関する意向を持っているが、現段階での差し迫った課題とは捉えていない状況を把握することが出来た。

また、子育て世代を中心とした女性の仕事へのニーズに関しては、短時間で就業時間の調整が可能な職場であることを求めていることが把握できた。調査を行うことにより、現状やニーズを改めて認識し、様々な機関と連携し対応していく必要性を改めて認識できた。

6 課題

(1) 地域住民、市町、関係団体、県等から構成される連絡会の実施

- ・ 1回2～3時間程の会であったが、綿密な意見交換をするには、時間が短いとの声があった。
- ・ 参加者が多岐に渡るため、会の日程調整を行う際に、参加できない者が存在した。

(2) 仕事づくりに関する調査

現状やニーズを確認することが出来たが、ごく一部の状況であることから、今後も継続した調査の必要性を改めて認識した。

7 おわりに

本研究により、地域住民、関係団体、市町、県等が一堂に会し、地域課題について意見交換を行う場を設けることができた。その結果、官民連携が進んだだけでなく、様々な事業の実施や活用に繋がることとなった。

また、にし阿波地域の状況に合わせた仕事づくりをどう進めていくのか認識することができ、施策展開の基礎となり、今後も継続して意向を確認するなどの必要性が高まった。

今後も、地方創生実現に向け、地域住民、関係団体、市町、県等が連携し、移住交流の促進や地域づくり、集落再生・活性化の取組みを着実に進めていく。

	①にし阿波のよいところ（長所等）	②にし阿波のよくないところ（短所、課題等）	③②について、それを解決するための方法
住民	<ul style="list-style-type: none"> ・みんな挨拶してくれる ・人なつっこくて話が弾む ★人がいい＝熱い ★人が割とおだやか ・人生の先輩が沢山生きている 		
環境	<ul style="list-style-type: none"> ★空気がきれい ・山と川といった自然あふれる環境 ★自然が多い（山、川） ★標高の低いところまで水がきれい ・野菜が安くおいしい ★自然を活かしたアクティビティが多い ・自然がアトラクション 	<ul style="list-style-type: none"> ★海の幸が少ない ★植林が多すぎ ・アトラクションが自然しかない 	<ul style="list-style-type: none"> ・伐って利用し、新しい価値に転換する ・徹底した自然のアトラクション利用
歴史文化	<ul style="list-style-type: none"> ★日本的文化生活が残っている ★集落が多い＝文化が強い ★重伝建がある（うだつの町並が3つ） ・歴史・文化のマニア向けがある ・県は全国的に無名なので神秘的 	<ul style="list-style-type: none"> ★音楽文化が少ない ・映画館がない ・テレビに出ない ・秘境イメージがある 	<ul style="list-style-type: none"> ★映画祭の開催（2017年度2月予定） ★観光資源
経済	<ul style="list-style-type: none"> ・長時間勤務とは無縁 ・物価がわりと安い ★仕事がしやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事がない ・漁業がない ・農地が少ない ・飲食業が少ない ★にし阿波ブランドの打ち出し方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の整理をして、マッチングを行ってみる ★サテライト飲食 ★hidden hamlet 千年のかくれんぼ
立地設備	<ul style="list-style-type: none"> ・車があればどこでも行ける ・渋滞がない ★土地が広い ★ビルがない 	<ul style="list-style-type: none"> ・温水プールがない ・下水道が未整備 ・電車がなし ・プロパンなのでガス代が高い ★くみ取り ・外食できる場所が少ない（特に夜） ・車が必需品 ・道がせまく悪い ・大学が遠い 	<ul style="list-style-type: none"> ・風呂を大きくする ・IHの検討と太陽光の組合せ（エネルギーの自給化）たい肥利用する
その他	<ul style="list-style-type: none"> ★Wi-fiが強い ★VS東京 	<ul style="list-style-type: none"> ・若い女の子がめだたない ★ファッション関連のお店が少ない 	

Bグループ

・行政 ★民間

	①にし阿波のよいところ（長所等）	②にし阿波のよくないところ（短所、課題等）	③②について、それを解決するための方法
住民		<ul style="list-style-type: none"> ★話が下手 ・交通ルールを守らない ★土地への執着が強い ★土地への執着力が醜い ★おっさんがえらそう ★自分のこととして考えていない人が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ★無視 ★無視
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・自然が豊か ★山・川 ★食べ物が美味しい（野菜・肉など） ★水が良い ★空気がきれい 		
歴史文化		<ul style="list-style-type: none"> ・祭りができなくなってきた ★文化がテレビ中心になっている 	<ul style="list-style-type: none"> ★新しい仕事の種 ★イベントやカフェバー等での人と人との交流を増やす
経済		<ul style="list-style-type: none"> ・次世代の担い手が不足している ・耕作放棄地が多く、野放し 	★移住者を増やす
立地設備	<ul style="list-style-type: none"> ・広いスペースがある 	<ul style="list-style-type: none"> ★大学がない ・空き家 ★高松空港との便が悪い ・公共交通が少ない 	★行政に託すよりは、NPO・社団
その他		<ul style="list-style-type: none"> ★教育レベルが低い ★吉野川は遊泳禁止 	

Cグループ

・行政 ★民間

	①にし阿波のよいところ（長所等）	②にし阿波のよくないところ（短所、課題等）	③②について、それを解決するための方法
住民	<ul style="list-style-type: none"> ★人が素直である ★自分達がいいと思っていることを客観視しない 	<ul style="list-style-type: none"> ・閉鎖的な考え方が多い ★変化を嫌う ★遊び方を知らない ★運転マナーが悪い 	<ul style="list-style-type: none"> ★今まであったことのない人と会えるきっかけを提供していく
環境	<ul style="list-style-type: none"> ★川系の遊びが豊富 ・災害は少ない ・食住の環境はよい 	<ul style="list-style-type: none"> ★吉野川がありながらも子供時代川を満喫できていない 	
歴史文化	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビ番組が面白い（大阪と同じ放送） ★半田そうめんが旨い ★酒が旨い 	<ul style="list-style-type: none"> ★娯楽施設がパチンコ屋さんしかない ★ゆるキャラいすぎ 	
経済	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームレスにならなくていい 	<ul style="list-style-type: none"> ・安定した仕事が少ない 	
立地設備	<ul style="list-style-type: none"> ★何も無いところ ★未開地が多いところ ・（起業するなら）土地が余っている ★高松・高知アクセスしやすい ★高松空港へのアクセスがよい ★慣れると池田・脇町間が意外と近い 	<ul style="list-style-type: none"> ★公共交通手段が少ない ・何をやるにも車が必要 ★徳島道危ない ★ラーメン屋がない ★マルナカ食品しかない ★大学等の施設がないこと 	<ul style="list-style-type: none"> ★スモールビジネス 地域のニーズ ・インターナショナルスクール
その他	<ul style="list-style-type: none"> ★ジャンプが土曜日発売 	<ul style="list-style-type: none"> ・ベルギービールが飲めない ★人口が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ★個人努力

Dグループ

・行政 ★民間

	①にし阿波のよいところ（長所等）	②にし阿波のよくないところ（短所、課題等）	③②について、それを解決するための方法
住民	・移住者同士の繋がり 人が人を呼ぶ	★閉鎖的 ★考え方が短絡的 ★まとまりがいまいちない	・団体を減らす、無理にまとまらない
環境	・自然が美しい ★自然 ★自然がいっぱい ・剣山がある ★アウトドア		
歴史文化	★歴史文化は深い		
経済		★お金を落とさない（お金を使って遊べる場所が元々少ない？）	色んな外部の人に入ってきて貰う、色んな価値観があることを知って貰う
立地設備	★空き家が多いので資源となる	・移動に時間がかかる ・移動手段が少ない（車が必要） ★住む場所が少ない ・遊べる場所が少ない	交流の場所をつくる
その他	★人が少ない		

＜Aグループ案＞

にし阿波国の建国

【要旨】

にし阿波は、徳島県の中でも知名度が低い部類に入る上、過疎化が進んでおり、例え地域振興等のためのアイデアがあっても、人がいないため、大きな動きに繋がらない。まず、人の流れを作ることが一番ということで考えたもの。

「VS 徳島」と打ち出し、日本及び徳島県から独立した「にし阿波国」を建国する。にし阿波国に属する「にし阿波国民」は、にし阿波国が用意した独自のスマホアプリを利用することができ、スマホアプリを利用することにより、にし阿波圏域で様々なサービス及びにし阿波国の各種情報の閲覧や情報交換等を行うことができる。

また、にし阿波国民は、にし阿波国内で地域振興、教育、福祉等、様々なプロジェクト活動を行うことができ、そのプロジェクト活動に共感するメンバーを募りながら、地域の活性化へと繋げる。

なお、建国時やプロジェクト活動を立ち上げる際には、資金の獲得だけでなく、にし阿波国民を全国から募るため、クラウドファンディングを利用する。

もし仮に、にし阿波国のような地域が出てきた場合、共和国等として、アプリの連動を行う等して、事業及び人の流れを拡大する。

にし阿波圏域外に住むにし阿波国民が、プロジェクト活動やコンテンツを利用していくにつれ、にし阿波国へ往来するだけでなく、面白い地域だな、ここに住んでみたいなと思えるきっかけに繋がる。

【発表内容】

- にし阿波は、徳島県の中でも知名度が低い部類に入ると思われる。
- にし阿波のいいところを第1回の時に考えてみたが、それらは、全国のどこにでもあるものであり、どのようにしたら、にし阿波の知名度を高められるかを考えてみた。
- 徳島県で、全国的に有名なのは、神山町であり、移住希望者等が100人ぐらい列をなしている。もちろん、グリーンバレーも様々なことを行っているのだが、実際は、内容云々よりも情報発信で成功があるのではないかと思う。（全国誌やテレビ、講演でよく取り上げられている。）なので、全国の自治体から神山町に視察に来て、コンテンツだけ見てマネをしてみるが、実際は、神山町みたいになることはできない。根本的なものを見抜けない自治体が多いのだと思う。
- 「VS 徳島」と打ち出し、日本及び徳島県から独立したにし阿波国を作ろうという話。
- VS 東京は、全国的に衝撃もあり、PR効果はあったかと思う。
- 移住、サテライト、教育、文化、アートなどにコミットしたプレイヤーを全国から寄せ集め、にし阿波国民としてアプリ上でパスポートを発行する。（にし阿波の住民に対しても発券できる。）
- パスポートを所持していれば、にし阿波独自のコンテンツを楽しめ、お得な特典をつけていくことで、パスポート（アプリ）の価値を上げていく。
- お得な特典の例としては、スーパー等の加盟店舗における値引き、剣山等の観光関係のロープウェイが無料になる等の特典。
- 年会費3000円としたら自動的に収入の安定も図れる。初回は、地域活動に強いクラウドファンディングをここぞとばかりに使う。プラットフォームであるキャンプファイヤーは、手数料5%で案件は全国1位。地域パートナーを募集しており、キャンプファイヤーと繋ぐこともありではないかと思う。ここで調達したお金は、アプリの制作費、商品券（抽選）という形で使用する。この時点で、全国に対して、にし阿波国民の募集も併せて行えるのも大きい。
- 県内のPRについては、県民の8割が読んでと言われる徳島新聞で広告を載せたり、ケーブルテレビ等でアプリの有用性を紹介し、にし阿波国民を増やしていく。
- にし阿波国の中では、様々なプロジェクトを立ち上げることができ、例えば空き家再生をするときに、カフェ、ゲストハウス、オフィスにするというのがトレンドだが、それを行いたいにし阿波のプレイヤーがキャンプファイヤー等で資金調達して何かをする。キャンプファイヤーと昨日スカイプ会議をしたが、是非したいという声もいただいている。
- 資金の受入先としては、にし阿波銀行を作り、そこから資金調達をして、空き家の再生等を行うことになるが、基本はクラウドファンディングになる。
- これらのプロジェクトにより、リピーターの増加、内需の拡大の他、教育、福祉分野でも何か発揮できるのではないかと思う。
- 外のプレイヤーがプロジェクトやコンテンツを利用して行く中で、ここに住んでみたいな、面白い地域だなと思えるきっかけに繋がるのではないかと思う。

- ・「にし阿波共和国」等のように、にし阿波国と同じモデルを全国の自治体と連携し、両国を行き来できるようにする。これは、同じようなモデルを支援して、お互いに行き来し、特典を分かち合えるといった感じ。
- ・このシステムを全国的に波及できれば、人の往来ができていくのではないかと思う。過疎化は、アイデアがあっても、人がいないと何も始められない。まず人の流れを作ること徹底的に狙う。
- ・集落ツアー等があるが、例えば、にし阿波国の落合集落ということで、2重の価値が出る。にし阿波国のパスポート（アプリ）を使えば2日滞在無料等、できたらいいかと思う。
- ・にし阿波国は、アプリ上の仮想世界。ことがおきているのは、リアルな世界。にし阿波国では、スマホアプリで位置情報が把握でき、何かプロジェクトができれば、通知が来たり、共和国ができれば通知がきたり、旅行等のきっかけができればと思う。
- ・結局は、人の流れをどう作るかというところ。

【質問・意見交換等】

- ・主体は？→特に決まってはなし。大手企業でもよいし。何でもよい。
- ・加入店のメリットは？→今後皆さんと一緒に考えてというところ。
- ・にし阿波地域に8万人いて、0.5割として4000人、年会費3000円としたら、1200万円。月でいって300円の価値をどう作るかというのが大事。
- ・内需の拡大は仕掛け次第。宣伝、広告になるのかまだ分からないが。メリットがないのでやらないというのは、地域を巻き込むということに繋がらない。巻き込み方もややこしくない感じでやればいいのかと思う。（これを使うと安くなるよ！等）仕掛けは、みんなで作っていけばよい。
- ・ハコモノをつくるわけでもなし、アプリだけ。にし阿波でブランドを作るとなると、このぐらいぶっ飛ばないといけないかと思う。

< Bグループ案 >

アウトドアにし阿波

- ・目的は、西日本人からのイメージを良くし、個人旅行者の受入を行うという団体の立ち上げ。にし阿波＝アウトドアというブランドを作りたい。
- ・まずは、移住者を含む受入体制の整備をし（住居や相談窓口）、その中で、アウトドア協会を立ち上げ、活動を開始（会長 牛尾）する。
- ・千年のかくれんぼというブランドコンセプトがある中で、そらの郷が団体の受入を行っているが、個人旅行者が参考にするホームページだとか観光マップが充実していないので、個人旅行者向けで、PR、遊び方の紹介を行うことで、イメージアップを図ればいいのか。
- ・遊びの紹介として、三好市だったらラフティングやパラグライダー、剣山だったら、山であったり、美馬市は川のように、それぞれ特色があるので、遊びを全体的に紹介できるものがあつたらと思う。
- ・対象は、関西中心を中心とした若者と考えている。山登りに行こうとしたら、紀伊半島だとか鳥取の大山とか、滋賀県の比良山系が多く、登山者も若者が多い。一方で、剣山の場合、マニアックで、年齢層も高い。それを若者向けにしていく。
- ・若者向けのパンフレットで楽しみ方のコースを紹介したり、英語の看板等も充実していけるような活動を行う。
- ・その結果、人口が増えるという風に考えている。そのために、まず、基礎をしっかりしていく。
- ・要するに、千年のかくれんぼというブランドの中にアウトドアがあるということ。

【質問・意見等】

- ・ブランド化の案に名前をつけるとしたら？→つけられない。イメージのある他の都市としては、アメリカの内陸部かヨーロッパの内陸部、川が横に流れている都市かなと思ったのがきっかけ。
- ・千年のかくれんぼを補完する感じ？→そうなる。移住は結果的にやる感じで、にし阿波＝観光といった感じにする。
- ・今の地域活性活動は、アートとか色々やり過ぎて、ゴチャゴチャしすぎている。にし阿波＝アウトドアの方がわかりやすいかと思う。その中で、色々整備していけばいいと思う。

< Cグループ案1 >

NEXT 千年のかくれんぼ PAST 千年のかくれんぼ

【発表内容】

- ・千年のかくれんぼを補完する形でプランニングした。
- ・にし阿波＝祖谷になっているのが現状で、にし阿波でくくるときに、旨く使えていない現状がある。
- ・これまでの千年があったということは、これからも千年ある。
- ・NEXT千年のかくれんぼ（これからの千年のかくれんぼ）
住民を中心として、千年続くにし阿波を考える団体、市民活動を起こす。どういう形になるかわからないが、地元の住民が主体となって活動できる団体が必要であるかと思う。定期的に集会を行い、利活用等を考えていけるものがあれば、前向きに地域のことが考えられるのではないかと。例えば、いくつかの民泊を行き来できるようなイベント等を開催する中で、千年のかくれんぼが血肉化していくと思う。しだいに、同じことで悩んでいる地域とカンファレンスを組めばよいのではないかと。
- ・PAST千年のかくれんぼ（これまでの千年のかくれんぼ）
祖谷に特化しているので、PRとしてどうしても固まってしまう。また、にし阿波自体広域にわたるので、外から見たらわかりにくいため、「まぼろしの村にし阿波」というブランドを作ってはどうか。専用のホームページを作ったり、PR物として、かずら橋の上にパラグライダーが飛んでいて、大クスがある等のジオラマみたいなものを作ったり、巨匠に書いて貰ったTシャツ等、物販も考えながら、全体として、にし阿波という言葉が響かせるために特化したPRプラン。

< Cグループ案2 >

不健康タウンにし阿波

- ・そもそも千年のかくれんぼは、もう無理があるんじゃないのということで、全く方向性の違うものを考えた。
- ・徳島の中でにし阿波は肥満率が高くて、見るからに調子が悪そうな人が多い。最終的には、ツーリズム等を展開していくブランディング。
- ・不健康度が下がると、転落してしまった！みたいなニュアンスで盛り上げる。
- ・糖尿病致死率のランキング1位が落ちちゃった！みたいなニュースになるように、逆転の発想をして、HPであったり、PR物を作成する。
- ・まず記者会見をし、健康誌（ターザン等）で広告を出したり、とりあげてもらったりしながら、最終的に、目を引きながら、健康に関わるツーリズム、テンプルステイ、ファームステイ、病院と組み合わせたツアーなんかをツアー会社と組みながら、提案していく、1年ぐらいの企画になればと思う。
- ・健康保険とか医療機関、大学とか連携先が期待できるし、美馬市と三好市で、CCRCが動いているので、そことも絡めるかと思う。
- ・糖尿病以外の病名で、全国1位みたいな自治体とのカンファレンスができ、観光等に結びつくとまた面白くなる。
- ・基本的に滞在型なので、一過性では終わらない企画、イベント、仕組みが作れると思っている。
- ・健康度も上がるし、客も来るし、いいことだらけ。

【質問・意見等】

- ・にし阿波が不健康というデータ等はあるのか→西の方が肥満率が大きいというデータはあったかと思う。永年積み上げた徳島のブランド。見方を変えれば何個でも出てくる。（自動車保有率高い＝不健康という翻訳もできる。）
- ・まず、外に出るのに言い訳のいる地域なので、健康と銘打てば、地域住民も出てきやすいかと思う。
- ・一番やりたいのは、地域住民が参加できる仕組み。地域住民への啓蒙をどうにかしてできないかなと思っている。

現時点における「にし阿波国建国案」の問題点や課題、検討すべき事項等についてグループ毎に洗い出した結果、次の6点があげられた。

- (1) パスポートの価値（特典の内容、資金調達のメリット）をどう作るか。
- (2) にし阿波国民になるメリットは何なのか。
- (3) 高齢者が多いところでアプリ（要スマートフォン）は広がるのか。
- (4) 誰が中心となるか（運営形態）、拠点はどこか。
- (5) 表記方法は、にし阿波に統一すべきか。
- (6) 国王と女王は、誰が相応しいか。

これらの点の解決策や改善策等について、各グループで意見交換を行い、発表という形で情報共有した。発表の内容については、次のとおり。

<Aグループ>

- ・上記の課題について、話していたのだが、課題の山で、建国自体、あと1回という、この会で組み立てていくのは難しいと感じた。
- ・また、この人数では、中々課題は解決していかないのではないかとということで、建国宣言はやるとしても、例えば、「にし阿波国民を50人又は100人まで限定で募ります」から始めて、集まってから本格的に課題に取り組むという、いわゆるワンクッションをおくのがいいのではないか。
- ・にし阿波国民になりたい人に、例えば、1万円ずつ出資してもらい、100万円でアプリを作る等したり、にし阿波国の中に、機能別にPR省、スポーツ省なんか作って、本格的なリリースに結びつけたらどうか。
- ・100人のにし阿波国民については、ほぼ外の人になるかと思うが、仮移住みたいな、感じで、移住に繋がれるのではないかと思う。
- ・まとめると、あと残り1回でまとめて実現していこうというのは無理があると思ったので、もうワンクッション、小さなところから実現からやっていったらいいのかなということ。

(質問) とりあえず、にし阿波国民を50人又は100人集めて、にし阿波国の建国を考えていくために色々と考える環境を作るといふことか。

(回答) そういふこと。50人、100人を〇〇大臣みたいな、にし阿波国にコミットするような動機付けがあれば、100倍にして色々浮かんでくるんじゃないかと。

なお、地域住民の特典というのは、プレイヤーとは違う展開なので、普通に住んでいる人たちがパスポートを得てどのようなメリット、リターンがあるのか、そういう仕組みも考えなければいけないというところで、企業のニーズも、パスポートの価値を作ると同時に、メリットを作っていないとだめかなと思っている。

(質問) 6つの課題については、現時点では、解決するのは難しいか。

(回答) 現時点では、難しい。ワンクッションを置いてからの段階かと思う

(質問) 50人、100人集まって話が進むのか。ワークショップはできると思う。ただ、意見をまとめていくのは、人間であるので、難しいと思う。

(回答) それぞれやりたいことは違うが、まず、コミットすることに繋がりたい。50人の中で、10人を割り出していったり、〇〇省を作る際に、その中から選ぶという方式。

(質問) にし阿波国民になるメリットは何か。

(回答) コミュニティに参加できたり、人的交流ができる。

(質問) その前段階のにし阿波国の中心となる主体はどこか。

(回答) 今参加しているチームではないかと思う。このようなことを考える民間も少ないと思う。

< Bグループ >

- ・結論的には、ワンクッション置いた方がいいのではないかとということになる。
- ・にし阿波国民になるメリットが、プレイヤー及び住民に無い状態で、生み出そうとすると、ニーズやメリット共に多岐にわたっていて、それぞれをケアしにくいのではないかと思う。全体をケアしようとする、通貨であったり、銀行、ファンドとかそういう話になってくるが、そこまでの規模感、いきなりは難しいし、住民にとってのメリットがない。
- ・例えば、細かいことでいうと、にし阿波国民が集まれば、「理想のにし阿波暮らしグランプリ」みたいな、「こんな風な暮らしがこの町ではよいのではないか」というテーマでコンペティションして、優勝した人に集まったお金を渡し、3カ月間そういう生活ができるみたいなこともできるのでは。
- ・キーワードとしてあげていたのが、共助の仕組み「講」みたいな感じで、みんなで金を月単位で出し合い、それを積み立てて、みんなで使っていけるような大きいお金ができないかと。その仕組みをにし阿波国に落とし込むためにどうしたらよいかを考えた。
- ・ファンドで運用益を出すのか、宝くじ型で20%を最初から抜いて、運用費にあてて、残りの80%を国民に還元する仕組みも面白いと思う。
- ・にし阿波国の成り立ちについての話が中心で、魅力の話ができていない。にし阿波国のメリットである内需増大とか、観光含めた内需増大とか、福祉とか、そもそもその話ができないとテンションが上がらない。
- ・考えたのが、クラウドファンディング上に、にし阿波国を作るのはどうか。実際にやっている自治体もある。例えば、にし阿波で、何か事業をおこす人に対して、クラウドファンディング上でサポートをするというサービスから始めるのはどうか。
- ・その起業する事業者と出資者全員をにし阿波国民ということにして、シールであったり、カード等をお渡しする。そして、出資者自体がふるさと納税に繋がるという風な形。税金は払ってないが、国民自体はイニシャルとして増えるので、今まで見えない地域を応援したいという国民を顕在化させて、顕在化させた国民に対して、再度連携を取りながら、にし阿波国を作っていくのが現実的かなと思った。

(質問) クラウドファンディング上でサポートするというサービスとは具体的にどのような感じのことか。

(回答) クラウドファンディングなので、にし阿波国×キャンプファイヤーみたいな感じで出資を募ることができ、それがにし阿波国に限らず、環境やSOや住環境を含めて、にし阿波自体のPRに繋がる。また、出資者はふるさと納税に繋がるので、メリットはあるかなと言う感じ。

(質問) クラウドファンディング上でにし阿波国民を増やしていき、ある程度増えてきたらバーンと打ち出す感じか。

(回答) そうなる。クラウドファンディング上で国民を増やすことで、リアルな数字が見える。

(質問) クラウドファンディングで、ふるさと納税とはどういうイメージか。

(回答) 出資者が出したお金自体をふるさと納税としてみなしてもらえるとというのが最近できている。税金が控除できるので、せっかく出すならそこへ。ふるさと納税については、行政のメリット。店を出す人にとっては、ステッカー渡すとか、1食無料とか、それはそれでサービスを付ける。多方面で出資者のメリットとなる。

< Aグループ >

(1) 地域おこし協力隊の増員

- ・行政は、移住促進のための施策を多額の予算を用いて行っているところであるが、実際の所、移住に行き着くまでにハードルが多々あり、移住者はそれほど増えていないのが現状。
- ・地域おこし協力隊をどんどん増やす方向を目指すのはどうか。
- ・地域おこし居力隊は、自治体から雇われるため、大抵、仕事や住むところ等、通常の移住者に比べてハードルを越えやすい状況にある。
- ・また、地域おこし協力隊の外国人版である、外国人協力隊や外国に行かせて、外国人に地域のPR等を行う外国滞在協力隊なんかも作っても面白いかもしれない。

(2) 空き家のシェアハウス利用 (主に外国人対策)

- ・一戸建ての空き家はたくさんあるが、それを改修し、普通に住んでも1～4人(1家族分)ぐらいしか住まない。
- ・そこで、シェアハウスとして整備し、より効果的に滞在させてはどうか。シェアハウスの場合、5つの部屋があれば、5人が住める。外国人も滞在しやすい。
- ・「ウーフ」というサイトがあり、そこでは、受け入れ先である「ホスト」とホストに受け入れて貰う「ウーファー」が、登録している。そこでは、例えば、ホストが農業の分野で受け入れていた場合、ウーファーはボランティアで農業の手伝いをし、そのかわりノウハウを教えてもらったりする。また、ゲストハウスの場合、ウーファーが手伝いをする代わりに、ホストは、泊まる部屋と食事を与えるという、いわゆる等価交換しながら交流するというものが広がっている。徳島は農業が盛んであり、外国人を始めとするウーファーも結構来ているため、農業分野の方々にもこのような活動があるというのを知って貰い、外国人のボランティアを受け入れていただくのも大事かと思う。

< Bグループ >

- ・対象をUターンとIターンで分け、それぞれで移住施策を考えてみた。

【Uターン】(1) 学生を対象とした仕事の紹介

- ・美馬市で企業ガイドブックを作った際に、市内の企業を改めて調べたところ、1000以上の事業所があり、意外と多いことが分かった。
- ・行政も把握してなかったぐらいなので、学生もこれだけの企業があることを知らないと思われる。
- ・実際にこれを学生のうちから、様々な仕事や企業があると紹介しておき、最終的に、にし阿波の企業に就職してもらうという話。

(2) 学生のボランティア団体の結成支援

- ・地元に戻ってきてもらうためには、地元で動機付けとなる何か(こういう人がいる、こんなものがある等)が必要であると思われる。
- ・その何かを生み出すため、ボランティア団体に所属して、地元でボランティア活動を行わせるというのはいかがか。
- ・高校生になると何かと忙しく、難しいと思うので、小中学生から当たり前のようにボランティア団体入らせて、ボランティアを行うことが当たり前に思わせるようにする。

(3) 学生と地域おこし協力隊の交流

- ・学生と地域おこし協力隊との活動内容について交流を行えば、地元で目を向ける若者が増えるかと思う

【Iターン】

(1) 住宅及び仕事情報の市町間共有

- ・フェア等で相談を受けていると、仕事と住宅について必ず聞かれる。
- ・しかし、市町村単独の範囲だけ紹介しようとすると、限界があり、中々マッチングしない。
- ・そこで、にし阿波の中で、仕事は三好市、住宅は美馬市みたいな、1つの市町でやるのが難しいことを各市町毎に組み合わせることができると、面白いのではないか。

(2) 空き家の整備

- ・先日、奈良県の空き家バンクサミットで知ったのだが、空き家の片付けや改修を行っている団体があり、その団体は、空き家を何かに使用するという目的をもって改修するのではなく、今後、貸借したり、何かに使えるスペースとして、とりあえず準備している。
- ・このように、明確な目的がなくても、空き家の整備を行っておくことは、必要だと思う。
- ・その窓口を2市2町で作れば面白いかなと思った

<Cグループ>

(1) 空き家バンクの充実

- ・空き家情報が充実していることが、まず必要であり、空き家バンクのようなものがあるところは、移住相談の対応が早く、移住者も増えているのではないかなと思う。

(2) 空き家の整備

- ・空き家の片付けや改修も大切で、空き家に引っ越した際に、そこがまず重荷になるし、それがなんとかなると、色んな発想も浮かぶと思う。

(3) 情報の集約・一元化、人的ネットワークの構築

- ・民間と行政が情報を共有しながら、また、地元の事業者等を巻き込んでやっていくことが必要。
- ・仕事の面でも、ハローワーク以外でも紹介ができるネットワークがあればいいかなと思う。
- ・東北の農業では、繁忙期に人が自然と集まるようなネットワークもあると聞いている。そのようなものがにし阿波でもできないか。

(4) 子育てフォローの充実

- ・子育ての方々が来たときに、子育てのフォローができるようなものが定着して、不安無く利用できるような情報を公開していくのが大切ではないかなと思う。

平成 28 年度
にし阿波潜在的労働力調査報告書

目 次

I. 調査の概要	1
1. 調査目的	
2. 調査対象	
3. 調査期間	
4. 調査方法	
5. 調査の実施	
6. 回収結果	
7. 調査結果の見方	
II. 調査結果	3
1. 回答者本人について	
2. にし阿波で働くことについて	
3. 就業経験とやってみたい仕事	
4. 仕事に活かしたい技術、特技	
5. 自由意見	
III. 調査結果のまとめ	16
IV. 案内チラシとアンケート調査票（添付書類）	17

I. 調査の概要

1. 調査目的

にし阿波（美馬市、三好市、つるぎ町、東みよし町）におけるテレワーク等に関心を持ち、短時間労働が可能な“潜在的労働力”である女性、中でも、にし阿波に暮らしている子育て世代を中心とした“就業可能な人材”の現状やニーズなどを把握し、今後の施策に反映することを目的とする。

2. 調査対象

にし阿波（美馬市、三好市、つるぎ町、東みよし町）在住の子育て期の女性、および徳島県内の子育て期の女性。

3. 調査期間

2017年3月7日(火)～20日(月)

4. 調査方法

web アンケートを作成し、SNS やメールマガジンでの広報、口コミ、幼い子どもと母親が集まる施設等でのチラシ配布により実施。

5. 調査の実施

本調査は、徳島県西部総合県民局企画振興部（美馬）にし阿波振興担当の委託により、特定非営利活動法人チルドリン徳島が、企画・実施・集計・分析および報告書の作成を行ったものである。

6. Web アンケート回収結果

配布数	約 300 件
有効回収数	107 件
回収率	35.6%

7. 調査結果の見方

(集計表とグラフ)

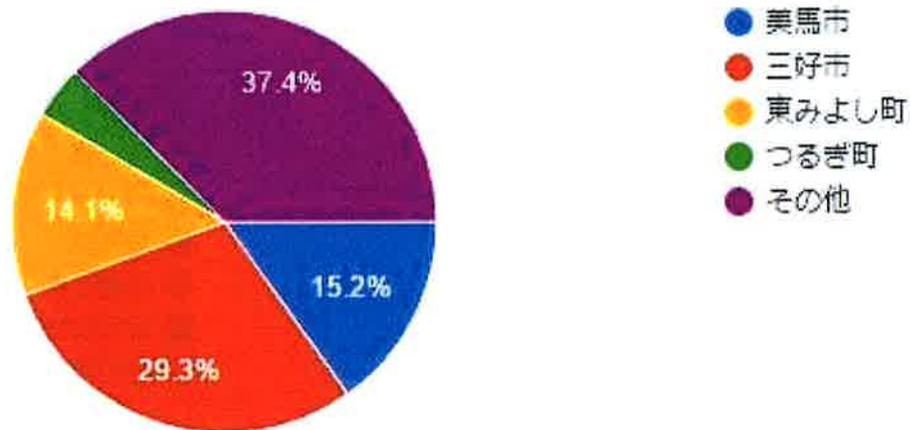
- ・集計表とグラフでは、回答率（各回答の百分比）は小数点以下第 2 位を四捨五入したため、回答率の合計が 100.0%にならないことがある。
- ・基礎となるべき実数（回答者実数）を n として掲載した。すべての比率は n を 100%として算出した。よって複数回答の設問については、比例算出の回答者数（票数）となっている。
- ・集計表については、選択肢を回答数の多い順に並べ変えている。

II. 調査結果

にし阿波の潜在的労働力となり得る女性の実態、意識調査について

◆回答者本人について◆

問1. お住まいはどちらですか？



	回答数	回答比(%)
三好市	31	29.0
美馬市	19	17.8
東みよし町	14	13.1
つるぎ町	4	3.7
その他	39	36.4

n=107

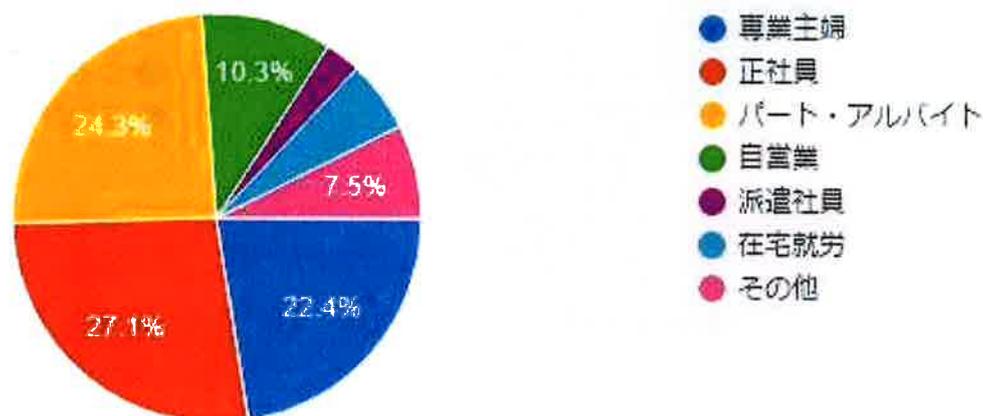
今回の回答者に関して、にし阿波2市2町でみると「三好市」在住の人が29.0%と最も多く、続いて「美馬市」、「東みよし町」、「つるぎ町」の順に多かった。なお、「その他」の内訳は下記の通り。

その他の内訳	回答数	回答比(%)
阿波市	10	25.6
徳島市	9	23.1

阿南市	6	15.4
吉野川市	5	12.8
北島町	2	5.1
小松島市	2	5.1
三好郡	1	2.6
名西郡	1	2.6
石井町	1	2.6
藍住町	1	2.6
兵庫県南あわじ市	1	2.6

n=39

問2. 現在お勤めをしていますか？

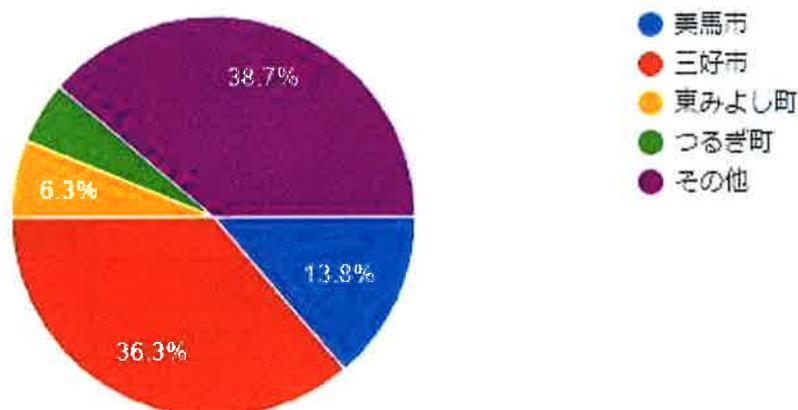


	回答数	回答比(%)
正社員	29	27.1
パート・アルバイト	26	24.3
専業主婦	24	22.4
自営業	11	10.3
在宅就労	6	5.6
派遣社員	3	2.8
その他	8	7.5

n=107

現在「専業主婦」は22.4%はいるが、「正社員」と「パート・アルバイト」と「派遣社員」を合わせた「外に勤めに出ている人」が54.2%を占める。「その他」には、『育児休暇中』、『臨時職員』、『病気療養中』、『3月末で退職』などがある。

問3. 現在お勤めの方は勤務場所を教えてください。



	回答数	回答比(%)
三好市	29	36.3
美馬市	11	13.8
東みよし町	5	6.3
つるぎ町	4	5.0
その他	31	38.8

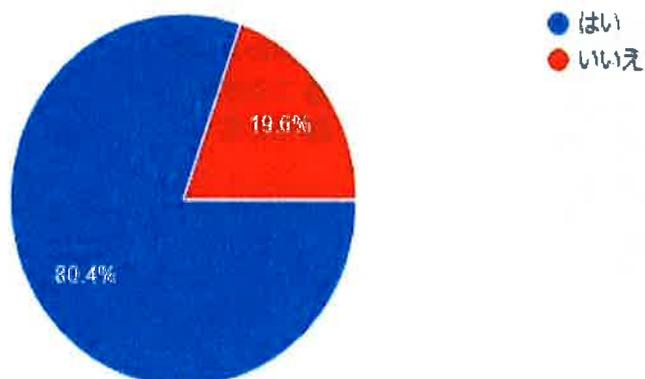
n=80

就職している場合の勤務地は、にし阿波以外である「その他」が最も多く、その内訳は下記の通りであるが、にし阿波在住の人が県西部以外の地域に勤めに出ているケースは、東みよし町から徳島市内へ（1名：正社員）、美馬市から鳴門市へ（1名：正社員）のみであった。

その他の内訳	回答数	回答比(%)
徳島市	11	35.5
阿波市	7	22.6
吉野川市	6	19.4
阿南市	3	9.7
鳴門市	1	3.2
北島町	1	3.2
藍住町	1	3.2
お客のいる所	1	3.2

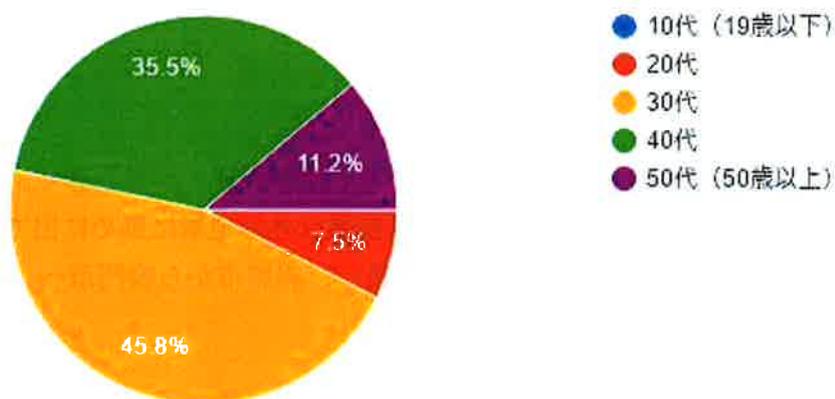
n=31

問 4. 現在、子育て中ですか？



今回の回答者の約 8 割が現在「子育て中」である。

問 5. あなたの年代を教えてください。

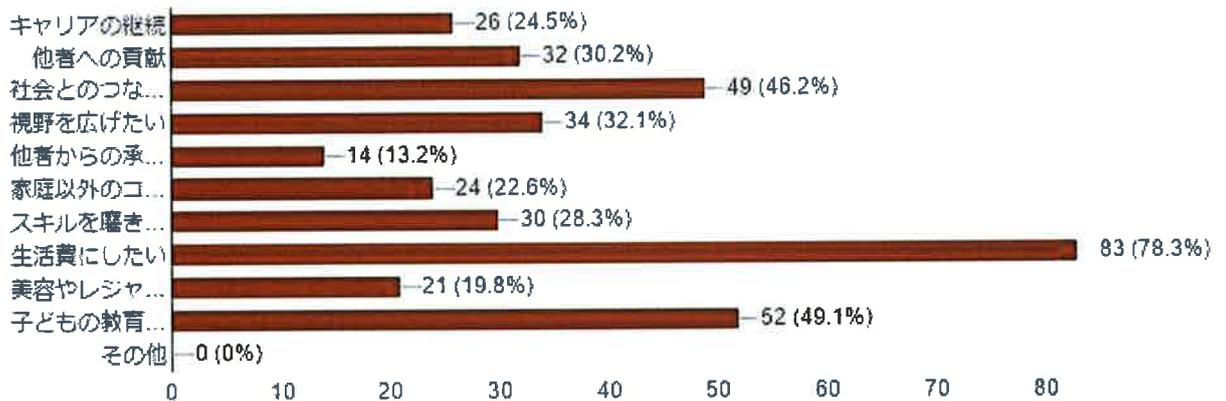


	回答数	回答比(%)
30代	49	45.8
40代	38	35.5
50代(50歳以上)	12	11.2
20代	8	7.5
10代(19歳以下)	0	0.0

n=107

今回の回答者の大半が「30代」と「40代」である。次に多い「50代(50歳以上)」と回答した 12 人の内 8 人は『現在、子育て中ではない』。

問 6. あなたが働く目的は何ですか？



	回答数
生活費にしたい	83
子どもの教育費にしたい	52
社会とのつながり	49
視野を広げたい	34
他者への貢献	32
スキルを磨きたい	30
キャリアの継続	26
家庭以外のコミュニティに属したい	24
美容やレジャー費にしたい	21
他者からの承認を得たい	14
その他	0

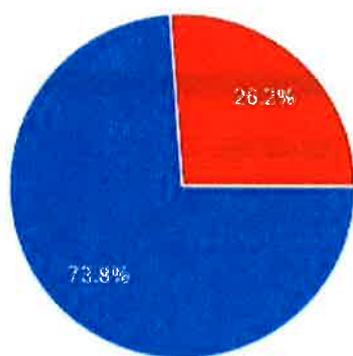
n=106 365

働く目的として、「生活費」や「子どもの教育費」のためといった“現実的な収入面”を挙げる人と、「社会とのつながり」や「視野を広げたい」、「他社への貢献」、「スキルを磨きたい」等の“自分の存在意義や成長”のためと考える人に二極化している。

また、「社会とのつながり」、「他社への貢献」、「家庭以外のコミュニティに属したい」、「他社からの承認を得たい」が合わせて全体の 33%あることは、子育て期の母親や勤めに出ていない女性が抱きがちな『孤立感』や『奉仕のこころ』が伺える、特徴的な回答と言えよう。

◆にし阿波で働くことについて◆

問 7. 機会があれば、にし阿波地域の中で働きたいと思いませんか？



● はい
● いいえ

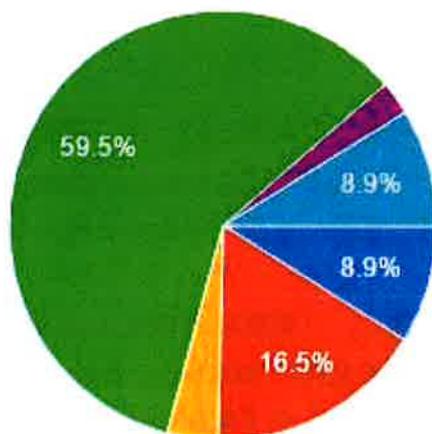
	回答数	回答比(%)
はい	79	73.8
いいえ	28	26.2

n=107

にし阿波で働いてみたいとする「はい」が7割以上を占める。「いいえ」と回答した多くが『県西部地域以外の人』であるが、『にし阿波地域で正社員やパート・自営業の仕事をしている人』も含まれている。にし阿波在住の専業主婦で「いいえ」と回答したのは1名のみ。

問 8. 問 7 で「はい」と答えた方に伺います。

(1) 働きたい時間帯はどうですか？



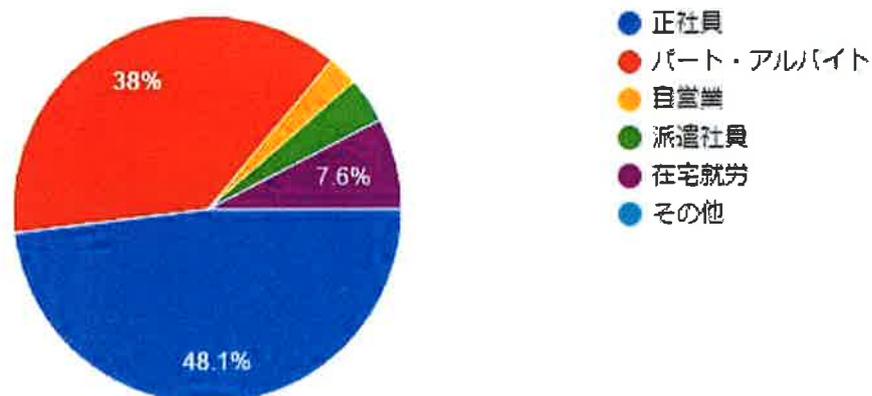
● 早朝
● 午前のみ
● 午後のみ
● 9:00~17:00
● 夕方・夜間
● その他

	回答数	回答比(%)
9:00～17:00	47	59.5
午前のみ	13	16.5
早朝	7	8.9
午後のみ	3	3.8
夕方・夜間	2	2.5
その他	7	8.9

n=79

フルタイム勤務の「9:00～17:00」希望が最も多いが、短時間就労の希望でみると、「午前のみ」16.5%、「早朝」8.9%、「午後のみ」3.8%、「夕方・夜間」2.5%と続く。「その他」の回答には、『子どもが学校に行っている間』、『空いた時間でできる仕事』、『週休3日』、『何時でもいい』などがある。

(2) その場合、どのような就業形態をのぞみますか？



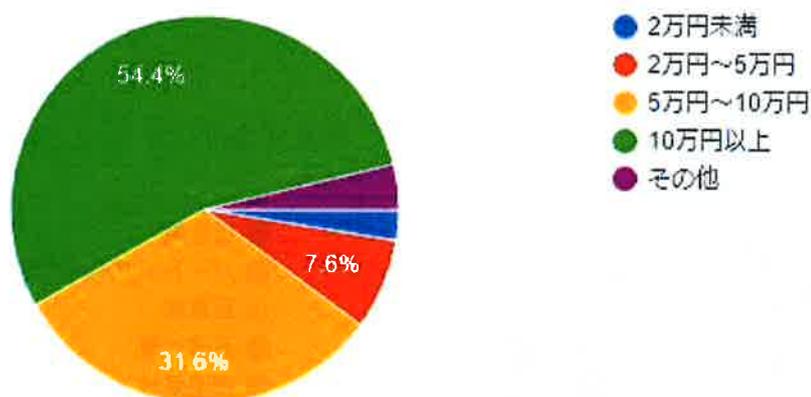
	回答数	回答比(%)
正社員	38	48.1
パート・アルバイト	30	38.0
在宅就労	6	7.6
派遣社員	3	3.8
自営業	2	2.5
その他	0	0.0

n=79

「正社員」を希望する人が最も多いが、「パート・アルバイト」38%と「派遣社員」3%を合わせた「雇用されて、時間的にはフレキシブルに働きたい」人が約4割、「在宅就労」7.6%と「自営業」2%を合わせた「雇用されずに、時間も場所もフレキシブルに働きたい」人が約1割いることが分かる。

さらに、「正社員」「パート・アルバイト」以外の“働きたい時間帯”をみると、「在宅就労」は、『午前のみ』2名、『午後のみ』、『9:00～17:00』、『いつでも』、『子どもが学校に行っている間』、『空いた時間』がそれぞれ1名ずつ。「派遣社員」は、『早朝』、『午前のみ』、『午後のみ』がそれぞれ1名ずつ。「自営業」は、『9:00～17:00』2名、であった。

(3) 月間にどれくらいの収入を得たいですか？



	回答数	回答比(%)
10万円以上	43	54.4
5万円～10万円	25	31.6
2万円～5万円	6	7.6
2万円未満	2	2.5
その他	3	3.8

n=79

「10万円以上」と回答した大半は『正社員』希望者だが、『パート・アルバイト』3名、『自営業』2名、『在宅就労』1名も含まれている。

「5万円～10万円」の大半は『パート・アルバイト』希望者だが、『在宅就労』4名、『派遣社員』2名が含まれている。

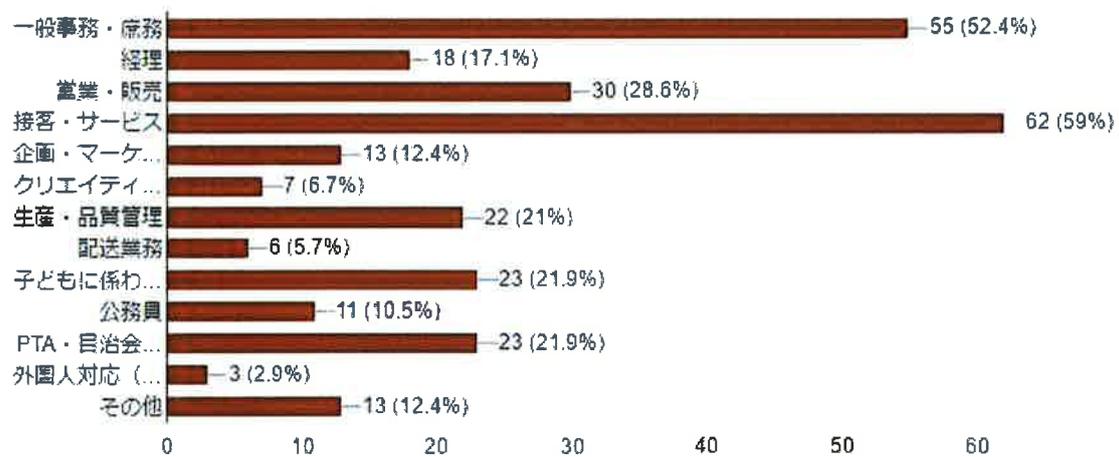
「2万円～5万円」は『パート・アルバイト』、『在宅就労』希望者が多い。

「その他」の回答には、「20万円以上」、「できるだけたくさん」などがある。

◆就業経験とやってみたい仕事について◆

問 9. あなたの就業経験について伺います。

(1) 今までに経験したことのある業務・役割は何ですか？

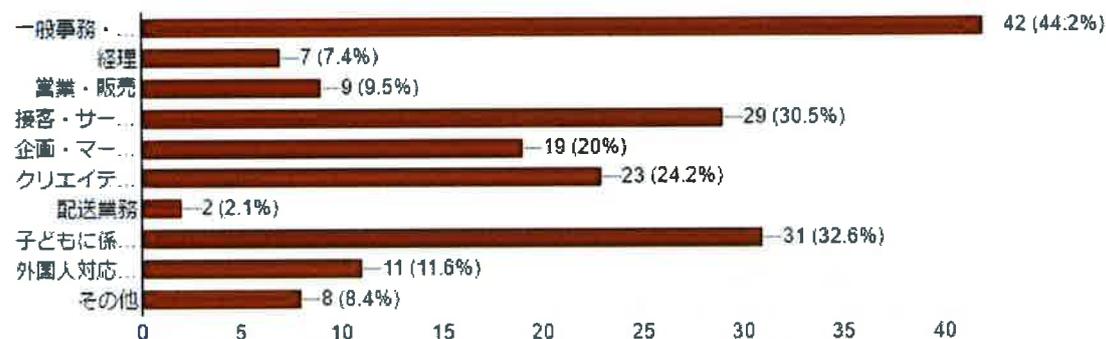


	回答数
接客・サービス	62
一般事務・庶務	55
営業・販売	30
子どもに係わる仕事(教諭、塾講師、保健師など)	23
PTA、自治会、婦人会等の役員	23
生産・品質管理	22
経理	18
企画・マーケティング	13
公務員	11
クリエイティブ関連(広告、雑誌、web デザイン等)	7
配送業務	6
外国人対応(通訳、文書の多元語化など)	3
その他	13

n=105 286

「接客・サービス」の経験がある人が最も多く、「一般事務・庶務」、「営業・販売」が上位。また、「子どもに係わる仕事」、「PTA、自治会、婦人会等の役員」、「生産・品質管理」の経験者もそれぞれ2割以上ずついる。

(2) 今後やってみたい業務はありますか？



	回答数
一般事務・庶務	42
子どもに係わる仕事(教諭、塾講師、保健師など)	31
接客・サービス	29
クリエイティブ関連(広告、雑誌、web デザイン等)	23
企画・マーケティング	19
外国人対応(通訳、文書の多元語化など)	11
営業・販売	9
経理	7
配送業務	2
その他	8

n=95 181

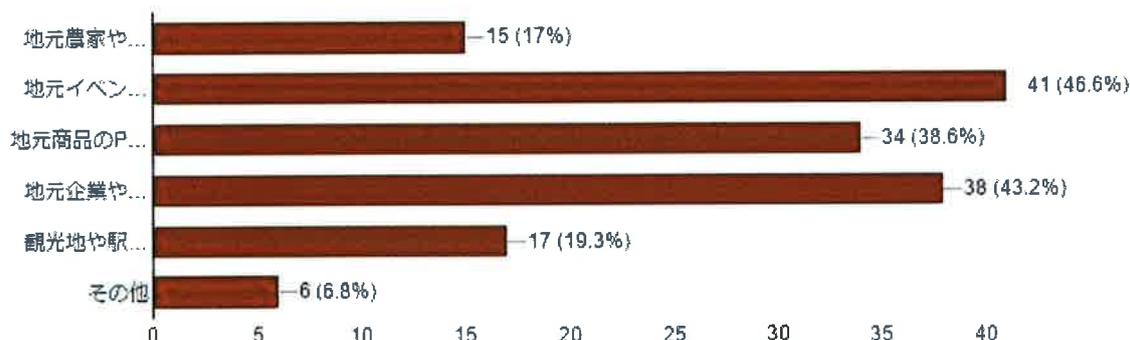
※記号は問 9 (1) との比較

- ↑ 大きく増えた
- ↗ 増えた
- ↓ 減った
- ↘ 大きく減った
- 横ばい

希望が多い「一般事務・庶務」、「接客・サービス」は(1)でも上位であることから“経験値のある業務”であることが伺える。逆に、経験があっても「経理」や「営業・販売」を希望する人は減っている。

「子どもに係わる仕事」、「企画・マーケティング」、「クリエイティブ関連」、「外国人対応」を今後やってみたいとする回答は増えている。

(3) 短時間就労やテレワーク（在宅ワーク）でやってみたい仕事はありますか？



	回答数
地元イベントの開催準備や運営スタッフ	41
地元企業やサテライトオフィスの事務ワーク	38
地元商品のPOPやポスター制作	34
観光地や駅・公共施設の案内板などの多言語化(外国語も表記する作業)	17
地元農家や商店に代わって徳島市内のスーパーなどに配達・集荷	15
その他	6

n=88 151

先の設問で、正社員希望の人が多かったことから「地元企業やサテライトオフィスの事務ワーク」が最多と予想していたが、「地元イベントの開催準備や運営スタッフ」が最も多く、関連性をみると、『社会とのつながり』や『視野を広げたい』、『他者への貢献』を“働く目的”と考える女性たちに選ばれている。

また、「地元商品のPOPやポスター制作」、「観光地や駅・公共施設の案内板などの多言語化（外国語も表記する作業）」を選んだ人は、『在宅就労』希望者や、『クリエイティブ関連』、『子どもに係わる仕事』、『接客・サービス』、『外国人対応』をしてみたいと回答したケースが多い。

「地元農家や商店に代わって徳島市内のスーパーなどに配達・集荷」と回答した人の大半は“現在、正社員”である。選択肢の言葉からは、時間的な拘束や仕事上の責任、体力勝負などが想像され、“挑戦しづらい”印象を与えたかもしれない。

「その他」には、『子どもの育児や教育のサポートをする仕事』、『外国人に生け花や習字を教える』、『内職』などがある。

◆仕事に活かしたい技術・特技◆

(4) 仕事に活かしたい専門スキルや特技があれば教えてください。

ピアノ、習字

ピアノ、習字

講演会やパーティの司会を務めていた

アロマ検定アドバイザー

コミュニケーション力

デザイン

硬筆、書道

英語

英語、秘書技能

手書きイラストや、デッサン描けます(美術短期大学デザイン卒業)

美容業でのカット

ペットの美容師

美容師免許

英会話

海外に行く仕事をしていた

カウンセラー

かどろの師範

イラスト製作

イラスト作成

教員免許。日本語教師

着付け、洋裁

子供の発達相談

Exel VBA,Access

お菓子作り、外国人受け入れ

経理

調理

◆自由意見◆

チルドリン徳島の活動において出会った“働きたいけれど働けない”ママたちの声

1. 三好市のママ達の就労状況や、子育て支援の状況

- ・子育て期でも正社員で就労している人が多い。
- ・求人の件数はある。
- ・女性や子育てに理解のある職場は少ない（高齢男性ばかりや、人手不足など）。
- ・転勤族（警察や四国電力など）の妻が、高いスキルを持ちながら就職できずにいる。
- ・子育て支援施設も市内で1カ所しかなく、郊外に週一だけ園開放がある。
- ・勉強の機会（講座）もあるにはあるが、託児はない。
- ・テレワークについては知らなかったが、とても関心を持った。ママ友に教えたい。

2. 美馬市のママ達の声

なぜテレワークに関心があるの？

- ・本当は人見知り、職場のコミュニケーションがプレッシャー
- ・婦人科系の手術後通院中
- ・母が祖母の介護、家事の分担と子育てをするため在宅がよい
- ・朝型の生活リズムなので7時半には家事が終わる。効率化を考えるのが好き
- ・幼稚園に勤務していたが、労働条件が厳しいので子育て中は復帰したくない
- ・子どもとの時間を確保したい
- ・パソコンで黙々と仕事するのが好き
- ・自宅でじっとしているのは無理、慣れていない。外に出る活動がよい
- ・写真を撮るのが好き。イベントに出てレポートするのは楽しそう
- ・2年間育児に専念してきたので、仕事をしている生活を想像できない

3. 阿波市のママ達の声

- ・1~2年後に子どもが入園するまでの在宅育児の期間に、仕事もしたい。
- ・移住してくる前から専門スキルがあるのでプロでやっていた。今もテレワークで仕事をしているが、2人目の妊娠を機にそのペースを見直したい（切に追われる本業を減らし、他のテレワークでゆったりと働きたい）。

4. 鳴門市のママ達の声

仕事をしたくてもできない現状

- ・ 転勤族なので就職活動をしても、長く勤められないからと敬遠される
- ・ I ターンなので、近くに頼れる人がいないため勤めに出ることはできない
- ・ 家事を丁寧にやる時間がとれないことがストレスになる
- ・ ビジネスの知識やスキルにブランクがあるので怖くて踏み出せない
- ・ どんな仕事でも良いとは思えない

5. 徳島市のママ達の心境

- ・ 仕事をしていないことに焦りを感じることもある。
- ・ 結婚もしたかったし子どもも欲しかったので幸せだが、退職を選ばずにあのまま仕事を続けていたら…と考える事がある。
- ・ 友達が仕事に復帰したという年賀状を見て焦ります。
- ・ SNS の友達の投稿を見ると、キラキラと楽しそうに見えて落ち込んでしまう。
- ・ 先輩ママから「子どもが小さくて手がかかるのは一瞬。焦る気持ちも分かるけど、今の子どもとの時間を大切にされた方が良い。」とアドバイスされ、いまの選択に一応納得している。

Ⅲ. 調査結果のまとめ

本調査の目的である「にし阿波に、テレワーク等に関心を持ち、短時間労働が可能な子育て世代を中心とした女性がいるのか、その現状や彼女たちの働く上でのニーズなどを把握し、今後の施策に反映するため」に、調査結果を照らしてまとめを加える。

今回のアンケート調査によって、機会があればにし阿波で働いてみたい、自分のことで地元に貢献したい、子育てなどをしっかりとしながら仕事もしたい、などの“働く意思がある”女性が想像以上に多く存在することが分かった。

併せて、働く上での条件やニーズ、これまでの経験や保有している技術・特技、さらには、心の壁になっていることなども把握することができた。

今後は、この「潜在的労働力」といえる彼女たちが生きるように、ニーズをとらえた働き方や仕事を提案し、必要な人に情報が伝わる方法・手段を考えていく、地道な取り組みが求められていると言えよう。



潜在的労働力アンケート（にし阿波）

徳島県では企業・地域の活性化のためのさまざまな取り組みを進めています。そのための現状認識にご協力ください。

本アンケートは、短時間労働が可能な潜在的労働力である子育て世代の女性を対象としたものです。

主ににし阿波（美馬市、三好市、つるぎ町、東みよし町）についての質問項目ですが、それ以外の方も回答対象としています。ご回答期限：2017年3月20日24時

*必須

にし阿波 潜在的労働力アンケート

にし阿波特産品が
抽選で当たる！



※切：平成 29 年 3 月 20 日（月祝） 24:00

1.お住まいはどちらですか？ *

- 美馬市
- 三好市
- 東みよし町
- つるぎ町
- その他:

2.現在お勤めをしていますか？ *

- 専業主婦
- 正社員
- パート・アルバイト

- 自営業
- 派遣社員
- 在宅就労
- その他:

3.現在お勤めの方は勤務場所を教えてください。

- 美馬市
- 三好市
- 東みよし町
- つるぎ町
- その他:

4.現在、子育て中ですか？ *

- はい
- いいえ

5.機会があれば、にし阿波地域（美馬市・三好市・東みよし町・つるぎ町）の中で働きたいと思いませんか？ *

- はい
- いいえ

1/3 ページ

次へ

Google フォームでパスワードを送信しないでください。



潜在的労働力アンケート（にし阿波）

*必須

6.5で「はい」と答えた方に伺います。

(1)働きたい時間帯はどうですか？ *

- 早朝
- 午前のみ
- 午後のみ
- 9:00～17:00
- 夕方・夜間
- その他:

(2)その場合、どのような就業形態をのぞみますか？ *

- 正社員
- パート・アルバイト
- 自営業

- 派遣社員
- 在宅就労
- その他:

(3)月間にどれくらいの収入を得たいですか？ *

- 2万円未満
- 2万円～5万円
- 5万円～10万円
- 10万円以上
- その他:

3/3 ページ

戻る

次へ

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。不正行為の報告 - 利用規約 - 追加規約

Google フォーム





潜在的労働力アンケート（にし阿波）

*必須

7.あなたの就業経験についてお伺いします。

(1)今までに経験したことのある業務・役割は何ですか？複数回答可

一般事務・庶務

経理



- 営業・販売
- 接客・サービス
- 企画・マーケティング
- クリエイティブ関連（広告、雑誌、webデザイン等）
- 生産・品質管理
- 配送業務
- 子どもに係わる仕事（教諭、塾講師、保健師など）
- 公務員
- PTA・自治会・婦人会等の役員
- 外国人対応（通訳、文書の多言語化など）
- その他:

(2)今後やってみたい業務はありますか？複数回答可

- 一般事務・庶務
- 経理
- 営業・販売

- 呂兼・販元
- 接客・サービス
- 企画・マーケティング
- クリエイティブ関連（広告、雑誌、webデザイン等）
- 配送業務
- 子どもに係わる仕事（教諭、塾講師、保健師など）
- 外国人対応（通訳、文書の多言語化など）
- その他:

(3)短時間就労やテレワーク(在宅ワーク)でやってみたい仕事はありますか？複数回答可

- 地元農家や商店に代わって徳島市内のスーパーなどに配達・集荷
- 地元イベントの開催準備や運営スタッフ
- 地元商品のPOPやポスター制作
- 地元企業やサテライトオフィスの事務ワーク
- 観光地や駅・公共施設の案内板などの多言語化（外国語も表記する作業）
- その他:

(4)仕事に活かしたい専門スキルや特技があれば教えてください。（例）イラストが描ける、華道の師範、ラッピング技術士、海外生活をしていた等

回答を入力

8.あなたが働く目的は何ですか？複数回答可

- キャリアの継続
- 他者への貢献

社会への貢献

- 仕事とのつながり
- 視野を広げたい
- 他者からの承認を得たい
- 家庭以外のコミュニティに属したい
- スキルを磨きたい
- 生活費にしたい
- 美容やレジャー費にしたい
- 子どもの教育費にしたい
- その他:

9.あなたの年代を教えてください。*

- 10代 (19歳以下)
- 20代
- 30代
- 40代
- 50代 (50歳以上)

にし阿波特産品プレゼントに応募される方はメールアドレスをご記入ください

回答を入力

ニックネームをご記入ください

回答を入力

